

第 42 回全日本ライフセービング選手権大会「BLS アセスメント」について

第 42 回全日本ライフセービング選手権大会における「BLS アセスメント」の実施方法、採点基準、および G2015 フローチャートを別紙の通りとしますのでご確認ください。

記

■ 実施方法

1. BLS アセスメントは、各チームからのエントリー制とし、選手は抽選により 2 名選出される。抽選は、個人種目で本選に進出した選手および予選免除者（以下、本選出場者という）の中から行う。BLS アセスメントにエントリーしているチームから本選出場者が 2 名に満たないとき、1 名の場合は 1 名で競技を行い（評価補助員を競技者 B として競技を行う）、本選出場者がいない場合は出場なしとする。
2. BLS アセスメントは、各チームから 1 チームのエントリーで男女の種目区別はしない。
3. BLS アセスメントに出場しなかった場合、そのチームはチーム総合の表彰対象から除外される。また、BLS アセスメントの種目別表彰は行わない。
4. 選出された競技者の氏名は、競技が行われる日の午前 7 時 30 分に公式掲示板に掲示される。
5. 選出された競技者が、なんらかの理由（怪我・病気等）により出場できない場合、午前 8 時まで BLS アセスメント評価員まで申し出なければならない。審判長がこれを認めた場合、残りの競技者の中から再抽選を行い、その場で競技者が発表される。競技は決勝のみとする。各競技者の判断で競技日の最終種目が終了する前に受付を行った後、BLS アセスメント評価員の指示で競技を開始する。
6. 競技者が他の出場種目の進行状況により指定された時間内に「BLS アセスメント」競技を行えない場合、あらかじめ BLS アセスメント評価員に申し出なければならない。原則として、事前の申告なしに指定された競技時間内に受付ができなかった場合、評価は受けられるが、その競技者は失格となる。
7. 選出された競技者は、チームキャップ、チームユニフォームを着用の上、参加すること（水に濡れた状態や砂が付着した状態での参加は認められない）。
8. 他の種目と同様、両上腕側面に選手番号が記載された状態で参加すること。
9. CPR および AED は、レールダグ社製 CPR 練習用人形および AED トレーナーを用いて行い、意識なし、普段通りの呼吸なし、頸椎損傷なし、途中回復なしの成人に対する処置を行うこととし、吹き込みはフェイスシールドを使用する。（別紙 G2015 フローチャート参照）。
10. 競技者 A・競技者 B の指定に関しては、競技開始時に BLS アセスメント評価員より伝える。
11. 競技者は、競技開始前に人形および AED トレーナーを使用して 1 分間の公式練習を行うことができる。公式練習中に器材の不具合が生じた場合は、速やかに BLS アセスメント評価員に申し出ること。
12. 競技の撮影については、競技後に各チームの振り返りや BLS トレーニングの参考目的であれば、チーム関係者に限り映像を撮影することを許可する。
13. 他の種目と同様、BLS アセスメントの評価に対する抗議は受け入れられない。

14. 競技日の翌日は、競技に参加したチームにフィードバックを行い、評価について説明する。
C 評価のチームは必ず参加し、手技の改善に努めること。また A、B 評価のチームもフィードバックを受けることを推奨する。
15. この他、なんらかの理由で競技に問題が生じた場合は、審判長が検討し対応を判断する。

■ 採点基準

CPR および AED の処置は、以下のポイントを BLS アセスメント評価員の目視によって採点する。

- ① G2015 フローチャート（別紙、参照）通り、正しく進められているか？
- ② 胸骨圧迫（心臓マッサージ）、気道確保、人工呼吸の手技は正しく行われているか？
- ③ AED は正しく扱われているか？

■ 評価と得点

競技者の CPR と AED の処置は、BLS アセスメント評価員によって、以下の 3 段階に評価される。また、得点は以下の通りとしチーム総合成績に加えられる。

評価	得点	内容
A	8 点	良い（3 つの採点基準が正しく行われていて、特に修正すべき点がない）
B	5 点	普通（3 つの採点基準が正しく行われているが、注意すべき点がある）
C	2 点	悪い（3 つの採点基準のうち、どれかひとつでも正しく行われていない）